

年頭のごあいさつ

南部町長 佐野和広

新年あけましておめでとございます。町民の皆様には健やかに新春をお迎えの事と存じます。

さて、年末には突然の衆議院解散があり慌ただしい中での年の瀬でありました。安倍政権の経済対策「アベノミクス」に対しての是非を問う選挙でありましたが、結果は国民の多くが継続を選択した訳ですから第3の矢である「成長戦略」をぜひとも成功させ、その成果が大企業・大都市に偏らず、少子・高齢化で疲弊している地方に及ぶ様に頑張っていただきたいと思えます。これから「地方創生」に向けて本格的な動きが成されると思えますので、大いに期待するところでもあります。

また今年、1月の県知事選挙、4月の統一地方選挙と選挙「Year」となりますので、政治から目が離せません。

さて、町政に目を転じますと昨年は将来を見据えた施策を推進してまいりました。最大の事例は永年、塩漬けされていた中野の民有地10,000坪の取得であります。現況はいくつかの法定手続きの作業が進行中であり、2年度中には企業誘致に向けて進入路や排水路の整備を進める予定です。また、中野交流施設については国交省との協議が進み詳細設計に向けて最終検討に入れる段階となっております。

次に保育所につきましては、今年4月より富河保育所と万沢保育所を統合し、富河保育所としてスタート致します。睦合と栄保育所については、建物の耐震化、統合場所、通園の問題等を考慮しながら少し時間をかけて結論づけたいと考えております。この事と関連しまして小学校の存続・統

廃合に言及されると思いますが、昨年教育委員会から町民の皆様には小学校適正規模のアンケートが配られ、まもなくその集計結果が判明します。この件は町民の皆様の大きな関心事ですので慎重に進めてまいります。なお、4月より従来の教育委員会制度が改編され、新たに「総合教育会議」が設置されますので、今後はその会議が中心となり方向性を提示する事になります。

さて、私は昨年の年頭の挨拶の中で確実に増える医療費削減に向けて運動を展開すると申し上げました。そして4月に各課を横断する形での「なんぶ健康会議」を立ち上げ、健康、長寿の町づくりがスタートしました。広報にも掲載しておりますので徐々に町民の皆様浸透してきてはおりますが、今年は更にその運動を加速させ、健康で住み易い故郷づくりに力を注いでまいります。

次に、教育・文化にも言及したいと思います。昨年4月から総合会館の一室を使いまして、地元教員OBによる未来塾がスタートしました。不登校生への対応や学力向上の為の補習授業を行っておりますが、県教育委員会からも注目されており、なかなか好評の様です。今年度も引き続き支援を続けてまいります。それから、以前から感じていたのですが、南部氏発祥の地であり数々の歴史・文化のある本町には残念ながらそれを伝える資料館がありません。財政事情厳しい折ですが、歴史をよく知る人達が健在の内になんとかその創建を果たしたいと考えております。現存する建物の再利用等を考慮しながら前向きに検討に入りたいと思います。

それから、防災についても大いに関心を払わなければなりません。ここ数年の地球温暖化・異常気象により全国各地で大きな災害が発生しております。本町にも昨年の記録的な大雪、何度となく襲った台風等があり、その度にできる限りの対策はとっておりますが、今年度もいんな場面を想定しての訓練を行ってまいります。

最後に、荒廃している森林・竹林についても触れておきます。我が町の特産品であるタケノコは年毎にその収穫量が違います。その為に県内外から訪れる人達に時には悲しい思いをさせております。対処の仕方によっては収穫量を平準化することが可能であるとの話も聞いております。町では昨年6月「竹林整備検討委員会」を発足させ、住民アンケート調査を行いました。竹林整備はタケノコの収穫ばかりでなく災害対策にもなりますので、調査結果を基にできる範囲内での対策費を計上したいと考えております。森林につきましては、その対策が広範囲に及びますので、「県森林審議会」での動きに頼らざるを得ません。なお、昨年11月の会議では、富土川中流地域は平成27年度から新たな10年計画の中で主伐材積・間伐材積は大幅に伸びております。主伐材積は前計画の61%増(31万8千m³)、間伐材積は14%増(6万1千8百m³)であります。

まだまだ話したい事はございますが、紙面の関係上この辺りで閉めたいと思えます。

町民の皆様には本年が素晴らしい年であります事をご祈念申し上げまして私からの年頭の挨拶といたします。